

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	バステル				公表日	R8年 2月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		多機能型事業所の特性を、活動内容によって個別や集団活動等に活かしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		人員基準以上の人員を配置。緊急時など多機能型の特性を活かして対応。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		多機能型事業所の特性を、活動内容によって個別や集団活動等に活かしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	6		生活空間は毎日清掃を実施。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	3	パーティションを使って個別の空間を作る等の工夫をしている。	長期休暇時は他の部屋を臨機応変に使えない状況がある。(多機能型事業所の為)
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		毎日打合せを行い、支援を検討。PDCAサイクルを意識した活動前後の振り返りと打合せも実施。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者の意向等があればスタッフ打合せ時に検討し、業務改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日スタッフ打合せ時、月1回の支援会議で検討しながら業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		第三者評価は未実施。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	外部研修、法人内研修を実施。(虐待防止、感染症対策、防犯、防災等)	研修の情報が不十分と感じているスタッフもいる。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページ上で公表済。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		定期的にあセスメントし、個別支援計画に繋げている。事業所独自のアセスメントシートを作成して活用中。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		毎日、支援開始前に打合せを行い、お子さん一人ひとりの支援内容と活動内容を確認し検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		毎日、支援開始前に打合せを行い、こども一人ひとりの支援内容と活動内容を確認し検討している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		定期的にあセスメントし、アセスメントシートを作成して活用中。	インフォーマルなアセスメントが中心の為、フォーマルなアセスメントも取り入れられるよう努めていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインを参考にしながら状況に応じた支援を実施。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動内容は打合せ時にチームで確認を実施。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		状況に合わせ、外出企画や事業所内活動を実施している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		基本的に個々の状況に合わせ、個別と集団の活動を組み合わせて実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援開始前に職員間で必ず打合せを実施。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援開始前に、前日の個々の様子などを踏まえて情報共有と検討を実施。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		情報共有システム（ケアコラボ）を活用し、改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		モニタリングには保護者との個別の時間を設け、見直しに必要な情報として参考にさせていただいている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		自立支援、創作活動、地域交流、余暇については組み合わせて活動出来ている。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	6		活動の中で、自己選択と自己決定する機会は取り入れている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者と支援スタッフが中心となって参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		各関係機関と連携して体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校へのお迎え時、電話、担当者会議等で調整している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		必要に応じて実施。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		担当者会議、情報提供シートを作成して提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	4	児童発達支援センターはないが、スーパーバイズ、助言を受けるための研修にはスタッフが参加している。	研修参加はしているが、充分でないと感じているスタッフが多い。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		希望制で活動参加の機会を提供しているが回数は充分ではない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4	みどり市子ども支援GWに参加。	協議会等への参加は不十分である。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		情報共有システム（ケアコラボ）を活用して情報共有。その他、要望に応じて相談支援。	
保	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		相談があった場合に対応。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明を実施。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		定期的に面談の機会を作り、意向に沿った計画書作成に努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		モニタリング時に保護者との話し合いの場を設け、サービス内容について説明し同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		モニタリング時や、その他必要に応じて面談等の機会を設け、助言や支援を実施。	

護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6		父母の会や保護者会については未実施。 今後の要望に応じて検討。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		面談の機会を設け、迅速な対応と丁寧な説明を実施。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		情報共有システム（ケアコラボ）を中心として情報発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の取扱いについての誓約書で同意を得ている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		個々に応じた配慮と支援。視覚的な支援を中心に、わかりやすく簡潔な言葉で伝える工夫も実施。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	法人全体でのイベントに関しては地域に開かれた運営を実施している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	4	各種マニュアルは策定済。送迎マニュアルについても作成済み。各種訓練を実施。	マニュアルの周知が不十分。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	BCPは策定済。緊急時連絡網、避難訓練を実施。スタッフ入職にはBCP、各事業所毎に避難場所についての確認と説明を実施。	防災訓練以外の訓練の回数が不十分。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		必ず保護者と確認し、必要がある場合はマニュアルを作成している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		保護者と確認し、マニュアルを作成。おやつやお弁当などは個別対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	安全計画は作成、周知済。防火管理上の安全点検、安全運転に月1回の車両点検を実施。送迎運転者のアルコールチェックを実施。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全計画は書面で周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		インシデントレポートを情報共有し、ミーティングでの協議を実施し、支援上で起きるヒューマンエラーやそれ以外の要素についても情報共有と改善に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		職員入職時、虐待防止研修を実施（法人内）。外部研修にも適宜参加。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		必要に応じ、保護者への説明と同意、身体拘束適正化委員会での検討等のプロセスは理解している。		